

私はジータ

「空の果て」
イスタルシアを
目指して旅をしているの！」

つらい過去も
沢山あったわ…

でもそれを乗り越えて
今も旅を続けている

これからもきつと…
そう思っていた
矢先だったの

「こちらにお怪我を
してる方がいるという
お話を聞いて参りました！」

「お怪我をされてる方は
どちらに…」

それは間違いだと
思い知らされる

「忌まわしい過去」
という怪物が
襲い掛かって
来るでは…

「よおー！
ウサギの嬢ちゃん」

「ずいぶん久しぶりだなあ！」

「貴方たちは…
まさかあの時の…」

「覚えててくれて
うれしいぜ」

「嬢ちゃんに
頼みたいことが
あってな」

「いやあ最近の
技術って
やつあすこいねえ」

「魔術で当時の
記録を残して
おけるんだからなあ」

「まっ、要件は簡単だ」

「いつを
ばら撒かれたか
なかったらさ」

「おっと
ここから先は
…わかつてるよな？」

「へへへ…」

たふん♡

たふん♡



「ちよろいもんだなあ!!」

「きゃっ!!」

「おい、お前ら、可愛いウサギちゃんが癒してくれるってよ!!」

「やだ...来ないで...」

「穴という穴全部にぶち込んでやれっ!!」

「あああああああああっ!!」

「このマンコ超締まるッ!!」

「ケツの穴もだ!」

「でっつきり空で仲間とよろしく犯ってばかりのユルガバだと思ってたのによお」



「うひょおっ!! 母乳だ、まじかよ!!」

「このいつ前犯したとき孕んでやがったのか」
「この胎の具合だと、随ろじやがったな」

「安心して、すぐに新しいガキ仕込んでやるぜ」

「あああ...そんな」

「この人数だ、誰のが当たるか楽しみだぜ」

「やっつてみるさろ...」
「出そうだ...」

「俺も...」

「ら...」

「...膣は」

「膣だけはだめッ
だめだからあああ...ッ!!」

「うるせえ!!」
「母乳吹き出しながら
受け取れ!!」



「やだっ、赤ちゃん...
また赤ちゃんが
できちゃう...!!」

「あゝマジ最高」

「ホント、何発でも
出せそうだわW」

「ドドドド...」

「おいおいマンコとケツから
ザーメンが溢れかえってる
じゃねえか」

「次に使うやつ
のこと考えとけよ」

「うう...うう...うう...」

「は...」

「わりいわりいW」

「なあ...『アレ』やってみねえか?」

「いいけどよお
こいつのマンコ壊れち
まうんじゃねえか?」

「そこは問題ねえ
なんつてったって
『セージ』様なんだからよ」

「自分のくらし
治すせるっしょW」

「ギヤのハッ
それもさるかW」





「あー出した出した」
「こりゃ、間違いなく孕んだな」

「あーあー…見てみようよ」
「マシゴから何か出てくるぞ」



「おほっすげえ
俺初めて見たわ」

「柔らかえし
マシゴにしてやがる」

「おいやめろ
ザーメン
こぼれてるだろ!」

ズン

「大丈夫だろ
子宮もパンパンだしな」

「今ごろ何百億って
精子がこいつの卵子に
群がってるんだぜ?」

「おい、聞こえてっか?」

「前みたいに
助かると思っ
てないよな?」

「今度も奇跡が
起こると思うなよ」
「これから
犯しまくって何度でも
産ませてやっからよ」



「そこんとこ
ヨ・ロ・シ・ク・♪」

「ギャー——ハハハアアッ!!」

ズン

「こつちでも輪姦され
子宮でも輪姦されて
まったく人気者だねえw」